

## ■ 支部 だ よ り ■

### 北海道・東北支部のうごき

平成13年度北海道・東北支部酸性雨調査研究専門部会担当者会議が3月7日(木)に、新潟厚生年金会館において開催された。

会議には14機関、25名が出席し、全国環境研協議会酸性雨調査研究部会の活動報告、北海道・東北支部積雪成分合同調査結果の報告書作成および平成14年度以降の支部合同調査を議題として熱心に協議が行われたほか、事務局側からの依頼に基づき、秋田県環境センターの斎藤勝美氏が、平成14年度以降の支部合同調査に係るパッシブサンプラー(短期ばく露用拡散型サンプラー)について講演を行った。

会議に先立ち酸性雨調査研究専門部会長である宮城県保健環境センターの森所長と会議の開催県である新潟県保健環境科学研究所の大山所長がそれぞれあいさつし、開催地の漆山調査研究室長が議長に選出され、以下の議事が進められた。

#### 1. 全国環境研協議会酸性雨調査研究部会の活動報告

全国環境研協議会酸性雨調査研究部会の支部委員である宮城県保健環境センターの北村主任研究員から、全国酸性雨部会会議の開催状況についての説明とあわせ、第3次全国酸性雨調査に係る調査結果の取りまとめ(フロッピー様式による参加機関データの収集)と、パッシブサンプラーによる新たな測定法を含む第4次全国調査計画に関するアンケート調査に対しての協力依頼があった。

#### 2. 北海道・東北支部積雪成分合同調査結果の報告書作成について

宮城県保健環境センターの佐藤総括研究員から、支部が平成7年度から11年度までの5年間に実施した「積雪成分合同調査」の調査報告書案の概要説明と支部総会報告に向けた報告書完成のための作業スケジュールについて説明があり、意見交換が行われた。

#### 3. 講演

事務局側からの依頼に基づき、秋田県環境センターの斎藤勝美氏が、支部合同調査および全環研

第4次全国調査で新たな測定法として実施しようとしているパッシブサンプラーに関し、長期ばく露に対する適応性と測定値の信頼性および白神山地における同法での測定結果について、「パッシブサンプラーの有効性と信頼性、そして白神山地での調査結果」と題しての講演を行った。

#### 4. 平成14年度以降の北海道・東北支部合同調査について

北海道環境科学センターの野口研究員から、平成14年度以降の支部専門部会としての酸性雨調査計画について、パッシブサンプラーによる新たな調査法を含む調査課題「北海道・東北におけるガス状酸性化成分等の濃度分布」の調査目的、新たな調査法の採用、年次計画について説明があり意見交換が行われた。

また、14年度以降の新たな合同調査案に対し、宮城県が調査内容等に関するアンケート調査を行い、その結果に基づき実施計画を具体化していくことも併せて確認された。

#### 5. その他

議事討議終了後、次期開催県である秋田県環境センターから挨拶があった。

#### ◇ 北海道・東北支部における酸性雨合同調査の経緯

- ・昭和62年度～平成6年度  
梅雨期と降雪期における合同調査
- ・平成7年度～11年度  
積雪成分合同調査
- ・平成15年度～17年度(計画)  
ガス状酸性化成分等濃度分布合同調査

注) 14年度は15年度からの本調査の実施に向けた器材の準備、パッシブサンプラー技術の習熟、予備調査の実施を予定。

### 東海・近畿・北陸支部のうごき

#### 1. 第16回支部研究会

14年2月21～22日大阪府職員会館にて開催され、以下の19課題について発表がなされた。

大阪市のNO<sub>2</sub>汚染を考える

大阪市立環境科学研究所 板野 泰之

■ 支 部 だ よ り ■
---------------

生駒山頂および奈良市内における VOCs の濃度変化について 奈良県衛生研究所 井上ゆみ子  
大阪府における酸性雨(酸性沈着)調査研究

大阪府公害監視センター 西川 嘉範  
大気汚染と歴史的資料の保存環境—木質空間における有機酸の挙動—

大阪府公害監視センター 辻野 善夫  
最近の伊勢湾の水質について

三重県科学技術振興センター保健環境研究部  
吉岡 理  
飛鳥川の水質調査—無機イオン等の変動について— 奈良県衛生研究所 兎本 文昭  
汚染河川中の微量元素の挙動

大阪府公害監視センター 西村 貴司  
奈良県におけるダム湖の酸性化調査

奈良県衛生研究所 松本 光弘  
環境中化学物質の測定方法に関する研究

富山県環境科学センター 中山 将人  
河川水のパタル酸ジ-2-エチルーヘキシル抽出方法の検討 京都市衛生公害研究所 中川 和子  
排水試料での変異原性の実態とその特徴について  
名古屋市環境科学研究所 山守 英朋  
アゾメチンHを用いたほう素分析法の検討

兵庫県立公害研究所 金澤 良昭  
三重県北部河川環境中のノンルフェノール, ビスフェノール A などの状況

三重県科学技術振興センター保健環境研究部  
佐来 英治  
河川環境中のダイオキシン類の解析

岐阜県保健環境研究所 大平 武俊  
地下水中のトリクロロエチレン等分解生成物の検出状況について

福井県環境科学センター 熊谷 宏之  
溶融スラグの土木資材利用時の環境影響評価について 岐阜県保健環境研究所 岡 正人

トンネルを通過する新幹線列車からの低周波音  
愛知県環境調査センター 石川 創  
市民参加型環境調査手法の検討

大阪市立環境科学研究所 今井長兵衛  
人工衛星リモートセンシングを使った都市域の水指標について

大阪府公害監視センター 山本 勝彦

## 2. 平成13年度東海地区化学物質分科会

平成14年2月13日, 名古屋市環境科学研究所において静岡県の参加も得て事例報告, 意見交換がなされ, 併せて施設見学(大江破碎工場)が行われた。

LC/MS を用いた分析について 三 重 県  
塩素化アルキルフェノール類の内分泌攪乱作用—Two hybrid 法によるエストロジェンの測定結果—

静 岡 県  
水環境中のダイオキシン類 岐 阜 県  
「化学物質環境調査」の今後の方向性について

愛 知 県  
ダイオキシン分析における留意点 名 古 屋 市

## 3. 第4回近畿ブロック「有害化学物質部会」

平成14年2月14日, 神戸市環境保健研究所にて以下の講演, 話題提供等がなされた。

「爬虫両性類を対象とした, 環境ホルモン等有害化学物質による生体影響調査の試み」

過剰肢ガエル調査のためのFETAX試験について

京都府保健環境研究所 坂 雅宏  
生態影響指標動物としてのクサガメの有用性とビテロジェニン測定法の確立 同 多田 哲子  
ノンルフェノールおよびビスフェノール A の県内河川水中分布とリスク評価

兵庫県立公害研究所 古武家善成  
POPs 条約の締結に向けて新たな環境モニタリング(黒本調査を含めて)の取り組み

大阪市立環境科学研究所 福嶋 実  
環境大気モニタリング(残留性有機汚染物質について) 兵庫県立公害研究所 鶴川 正寛

POPs による海洋汚染—大阪湾から黒潮域にかけて 大阪市立環境科学研究所 角谷 直哉  
POPs について各機関の取組状況— 各機関報告  
追加ゴルフ場農薬10項目について

兵庫県立公害研究所 藤森 一男  
追加ゴルフ場農薬10項目について各機関の取組状況— 各機関報告

## 4. 環境測定分析統一精度管理ブロック会議

平成14年2月26日富山市高志会館にて環境省および国立環境研, 支部機関の参加を得て実りある討議がなされた。

(記: 大阪市立環境科学研究所)